

地域団体商標「津軽の桃[®]」で ブランド力強化を

～「津軽の桃[®]」地域団体商標等研修会～

ＪＡ津軽みらいもも生産協議会（倉内信一会長）は3月9日、平川市のアップルランドで「津軽の桃[®]」地域団体商標等研修会を開き、生産者28人が参加した。

一般社団法人青森県発明協会知的財産支援コーディネーターの今野峰子さんを講師に迎え、「津軽の桃[®]」の権利取得後20ヶ月を振り返り、今後のブランド力強化のための取り組みを学んだ。当ＪＡでは、「津軽の桃[®]」でブランド化を目指し、平成26年1月にロゴマークでの結合商標を取得し、贈答用の箱に印刷など周知活動の実績を蓄積。28年7月に「津軽の桃[®]」で地域団体商標を取得。29年は青森市の消費者を招き収穫体験バスツアーを実施し、アンケートをした結果、PRや販売方法が今後の課題となった。今野さんは「ホームページやパンフレットなどに『津軽の桃[®]』はＪＡ津軽みらいの商標登録です」と書くことでPR効果と信頼性が増す。ブランド化に向け、生産者や参謀者、流通者などの連携が重要で、消費者を裏切らないブランド管理の徹底と生産者の想いなどをPRする必要がある。行政や地元企業、地域の利害関係者と一緒に考えることで、地域ブランドとなる可能性が高まる」と説明した。

また中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室より桃の凍害防止対策及び苗木改植、ひろさき広域農業共済組合より農業災害補償法の一部改正と収入保険制度、ＪＡより桃栽培歴について説明し、桃の栽培などに理解を深めた。



「津軽の桃[®]」ブランド力強化を説明する今野さん



高品質桃生産のため他産地技術学ぶ

～桃 剪 定 会～

3月9日、平川市の葛西理人さんの園地で桃の剪定（せんてい）会が開かれ、生産者40人が参加した。栽培技術向上で高品質な桃生産を図り、「津軽の桃[®]」のブランド力強化をめざす。

今回は他産地の技術を参考にするため、秋田県鹿角市の佐藤志峰さんを講師に迎え、斜立主幹形の剪定を学んだ。「短果枝で芽が多くなるように剪定をする」と実演指導した。

倉内会長は「何年か先を見据えた剪定技術。枝のはさみの入れ方など参考にしたい」と話した。



実演指導する佐藤さん